

令和 6 年度第 3 回岡崎市総合政策指針審議会 会議録

日 時

令和 7 年 3 月 26 日（水）15:00～16:30

場 所

岡崎市東庁舎 2 階大会議室

出席委員

名古屋都市センター長

奥野 信宏 会長

東京大学 教授

小川 光 委員

連合愛知三河中地域協議会 副代表

小林 義典 委員

岡崎市教育委員

千野 智子 委員

岡崎市総代会連絡協議会 会長

長坂 秀志 委員

岡崎信用金庫 地域振興部 部長

八木 則行 委員

岡崎市医師会 会長

山本 潤 委員

（欠席委員）

名古屋大学 名誉教授

福和 伸夫 副会長

名古屋大学 准教授

井料 美帆 委員

あいち三河農業協同組合 代表理事組合長

大竹 博久 委員

岡崎商工会議所 会頭

大林 市郎 委員

早稲田大学 教授

小野田 弘士 委員

（事務局）

総合政策部 部長

岡田 晃典

総合政策部企画課 課長

富田 浩也

総合政策部企画課 副課長

板坂 英幸

総合政策部企画課 係長

中村 衣里

総合政策部企画課 主査

武藤 康弘

傍聴者

0 名

会議要旨

1 議題「第7次岡崎市総合計画中間見直し及び次期総合戦略策定について」

【各委員の主な意見と事務局回答】

- 今後の方向性は、人材と財源の面が厳しくなっている印象を受ける。アイデアや実行力でどう乗り越えるかがポイント。
- 保健・医療・福祉分野の満足度が大幅に低下しているのは、若い世代はサービスへの期待感の低下、80歳以上は自分が50歳代、60歳代のときと同じ水準のサービスが受けられないことが原因ではないか。
- 限られた財源をどのように振り分けるかが重要なテーマ。まちづくりと健康など、医療費・介護費の抑制につながる施策を全体的な計画の中でどのように進めて行くかが重要。
- 医師の高齢化も進んでおり、現在の医療体制は高齢になっても医師が働き続けることで成り立っており負担が大きい。若い世代の医師の求心力が低下しており、懸念している。
- 防災・強靱化対策では自助・共助・公助の取組みがあるが、自助の実行が重要。市民が何を備蓄しているか、1度アンケートを取ってもよいのでは。
- 災害時には災害ゴミの地域での仮置場や仮設住宅の候補地の事前確保が重要だと思われる。計画として整理されているか。

（事務局回答）

仮設住宅については、地域防災計画の付属資料で候補地を示している。災害ゴミについては、災害廃棄物処理計画において仮置場を示している。地域における一次置場は設定できていない。発災時の災害廃棄物処理における効率化及び市民の負担軽減のためには、市域に偏りなく設置されていることが好ましいため、担当部局にご意見を共有し、一次置場の設置場所を検討する。

- 交通分野において、交通弱者への対応と、事業者の人手不足が気がかりである。本宿のアウトレットモール立地による道路渋滞も想定される。インフラの整備は非常に重要であるため、交通弱者を守り、渋滞解消への対策を講じてほしい。
- 総合計画がわかりにくい要因として、抽象度の高さが挙げられる。数字や地域名、具体的なサービス名記載により具体性を付与すればわかりやすさにつながるのではないか。
- 限られた予算・財源で施策を展開するためにはデータと数字が重要になると思う。EBPMの取組としてデータ化できる部分はデータ化し、施策の効果など数字を示したうえで判断するようにEBPMを推進していただきたい。
- 岡崎市の教育は一定の評価を得ていると思われるが、教育・文化の満足度が前回調査から低下している。要因の分析があればお伺いしたい。

（事務局回答）

教育に関係している10代、20代の満足度の割合は他の年代より高い傾向にある。一方、自由記述を見ると体育館のエアコン・空調に関する記述があるため、岡崎市内の小中学校の体育館に空調が設備されていないことが要因の1つとして考えられる。

- 保育園の民営化を進めていくとあるが、今後少子化が進むなかで民営化の推進が実現可能か懸念している。どのような民営化を想定しているか確認したい。

(事務局回答)

岡崎市は公立保育園の割合が高く、他市では民営化が進んでいる。岡崎市が保育園の整備・運営に力を入れないというわけではなく、補助金等で支援し、民設民営による保育を進めていければと考えている。

- 教育・文化について、教育で効果的・効率的な運営、保有量の適正化と記載があるが、保有量の適正化はどのような意図があるか。

(事務局回答)

既に小中学校で空き教室が出ており、今後も増加が見込まれる。中長期的な大規模修繕が必要な際に、該当地域の全体を見て適正化を進めていきたいと考えており、記載内容については意図が伝わる形で修正したい。

- 総合計画内で促進する、推進すると記載されていても実際にはイメージが湧かないと思われる。目指す期間と姿の明記によりわかりやすさが増すと思われる。
- 防災・強靱化対策は有事の際に日頃から備えておくことが重要である。市で進めてきた対策の効果を発揮する場がなく批判もあると思うが、市民を守る重要な取組であるため強い信念をもって対策を進めてもらいたい。
- 今後は避難所の快適さを求めたほうがよいのではないか。最近は避難所の体育館内にテントを張るケースもあり、プライバシー保護につながっている。岡崎市であれば周辺のホテルや旅館を避難所としての活用も検討できるのではないか。
- 商業・観光分野で市内外の情報発信とあるが、外国は対象外になっているのではないか。日本全体でインバウンドが増えており、外国に向けて英語での情報発信も今後重要になるとのではないか。
- 交通の整備について、中山間地域を抱える岡崎ではラストワンマイルの取組は重要であり、機能させるべきである。一方でラストワンマイルも10年後、15年後を見据えると取組が難しくなるのではないか。中長期的な視野も入れ、ラストテンマイルまで想定しておくべきだと考える。
- 防災に関連して自治体ではコミュニティ強化を強く押し出していくべきではないか。実際に他地域で被災した際、日頃からコミュニティ整備が進んでいた地域は復興が早かったという事例もある。また山間部では土砂崩れなどの災害が頻繁に発生しており、放置しておくとう都市部にも影響が及ぶことが想定される。今から山間部の整備を進めておく必要がある。

2 報告「第2期岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・改定について」 報告事項の説明

3 その他
なし

以上